

グリーン久万郷 クリーン仁淀川

仁淀川流域の水と暮らしを守る会
(旧久万高原町産業廃棄物処分場設置を止める連絡協議会)

代表 川本博文 0892-21-0706
事務局 鷺野 宏 080-6376-8076
編集長 古田 隆 090-4784-1041
HP <http://stop-kumakogensanpai.info>
Mail info@stop-kumakogensanpai.info

互いの立場尊重し対話を通じて流域づくりを

「仁淀川流域の水と暮らしを守る会」へ発展的改称

産廃を止める会は、去る10月13日総会を開き、否定や対立を乗り越えて、対話を通じて、きれいな水と空気と大地を引き継いで、町づくり、流域づくりをしようと、会の名称を「仁淀川流域の水と暮らしを守る会」と改めることになった。川本代表の挨拶と承認された議案を掲載した。

共に語り合える会に発展させよう 川本代表あいさつ

(前略)
産廃の現段階
T Oの管理型最終処分場設置計画が24年5月判明し、3年4ヶ月が経過を致しました。本年6月16日の愛媛新聞に、「処分場計画を撤回」―事業者 久万高原町に文書―という記事が掲載されました。

本会の性格・理念
後程、議事の中で今後のこの会の取り組み等につきましても協議をいただきますが、この会は、設立当初から、特定の企業や団体、或いは個人と対立・敵対することを目的とする会ではございません。会の規約にありますように、先人から受け継いだ自然環境・生活環境・文化環境を継承し、健康で文化的な生活が維持できるように、対話を通して、持続可能な生活環境を明日に

つなぐことを目指す会でございます。
ヤマザキさんから学ぶもの

唐突ですが、ヤマザキマリアさんという方をご存知でしょうか。(中略)この方の著書に「国境のない生き方」―私をつくった本と旅―という本があります。この本に書かれていることをいくつか紹介させていただきます。

「バカみたいだけれど真剣だし、バカみたいだけれど本当のことを言おうとしている。自分もそういう大人になりたいと思いました」

「自分で考え、自分で感じ、自分の手と足を使って学んでいくことを経験というのだと思います」

「私にはそうは思わない」と言うことは、別に相手を否定することじゃない。納得したい、相手のことをきちんと理解したい。

対話というものはそこから始まるものではない。そこから新しい展望が開けていく。人間に愛されることも大事だけれど、地球が前には生きていて欲しいと思うような人間、そういう生物にならな

きやいけない。こんなことが書かれて

平成27年度活動計画

- 1 産廃処分場計画の現状と今後予測される事態についての周知
名称変更に伴う新しい趣意書・チラシの作成
- 2 役員・理事会体制の再構築
暫定執行部役員の選任
27年度中に新体制を確立する
- 3 清流水系保全条例制定に向けての取り組み
取り組み方法と体制の検討
- 4 仁淀川流域市町村との連携強化
仁淀川流域市町村の理事選任

役員改選 暫定執行部役員

代表 川本博文
副代表 石丸 常・川崎美代子
事務局 鷺野 宏
編集長 古田 隆
会計 篠崎雅世

直瀬の方の感覚

先日、直瀬の方に美味しいトマトをいただきました。そのラベルに「いちごのような形のかわいい完熟トマト、久万高原のきれいな水と空気です」とありました。

「きれいな水と空気」「育てました」ではなく「育ちました」に何とも言えない奥深いものを感じました。

本会発展への願い
◎この会が、一人でも多くの方が気軽に参加でき、否定や対立ではなく、お互いの立場を尊重しあい、対話を通じて、

◎いつまでもきれいな水と空気のある地域づくり、町づくり、流域づくりについて、

◎自然とともに未来にきれいな水と空気と大地を受け継いでいく

会計報告

収入の部	
前年度繰越金	710,604
カンパ(募金)	20,600
預金利子	128
計	731,332
支出の部	
消耗品費	36,766
会場費	3,120
通信費	6,578
学習会・視察費	8,530
差引残高	676,338

※平成24年度総会で規約改正し、年会費200円を廃止し、経費は寄付で賄うこととしカンパを呼びかけた。

- 四 役員改選 (右掲載の通り決定)
 - 五 平成27年度活動計画(右掲載の通り決定)
 - 六 その他
- ※議事の中で出た質問・意見等の詳細は別添「議事録」を参照してください。

総会議事

- 一 平成26年度活動経過報告 (2面掲載の内容を承認)
- 二 平成26年度収支決算報告 (左上掲載の内容を承認)
- 三 会の名称変更と規約改正 (別添資料の内容を承認―これまでの「久万高原町産業廃棄物処分場設置を止める連絡協議会」は今後「仁淀川流域の水と暮らしを守る会」となる)

1面に掲載したように、承認された1号議案平成26年度活動経過報告は次の通りである。質疑・意見等は別添資料「議事録」を参照していただきたい。なお、総会に先立ち行われた伊東英朗さんの講演の概要と関連がないとはいえない原発問題の「愛媛新聞」記事をはしよって紹介する。

情勢とらえるため行政・業者との面談

民意の動向と活動の展望探る理事会・役員会

承認された平成26年度活動経過報告

- 一 「産廃処分場を止める会」総会・「ゴミ0の町づくり」講演会を開催（平成26年3月9日）
- 二 仁淀川町大原儀郎氏（池川木材工業会長）の仲介により高知県庁県民談話室にて土佐市下元一郎氏と、高知県庁県議会議会自民党控室にて森田県議（前議長）他8名と面談（4月24日）
- 三 仁淀川町大原儀郎氏からの依頼にて産廃反対関係資料10部を送付（4月27日）
- 四 一 三瓶の水を守る会行政訴訟第4回口頭弁論を傍聴。（5月13日）
- 四 二 「産廃処分場を止める会」平成26年度第1回理事会（5月27日）
- 五 面河川漁協総代会にて（有）大宝砕石工業の「林地開発変更許可申請」について不同意を決定（6月17日）
- 六 仁淀川村大原儀郎氏からの依頼にて産廃反対関係資料10部を送付（7月4日）
- 「須崎市の佐々木市議（公明党）と仁淀川の清流を守る会の活動や久万の産廃処分場について話し合っている。高知市民の飲料水は仁淀川の水が7割を占めているという実態を市民は知らない。高知市民の啓発は私が対応する。」
- 七 「産廃処分場を止める会」平成26年度第2回理事会（7月25日）
- 八 第2回理事会での決定を受け、河野忠康県議に知事宛反対署名の直接手渡しについて交渉を依頼する。（8月10日）
- 九 横山博幸県議に知事宛反対署名の直接手渡しについて交渉を依頼する。（8月20日）
- 十 J R久万高原駅やまなみ2Fにて横山博幸県議と知事宛反対署名の提出について協議（9月2日）
- 十一 愛媛県県民環境部にて岡田清隆部長に知事宛反対署名を提出、横山博幸県議と県議会談話室にて面談（9月10日）
- 十二 県議会にて横山博幸県議の一般質問を傍聴（9月29日）
- 十三 「産廃処分場を止める会」平成26年度第3回理事会（10月15日）
- 十四 「産廃処分場を止める会」役員会（11月28日）
- 十五 松山市北梅本町オオノ開発（株）にて常務取締役大野剛嗣氏と面談（平成27年2月24日）
- 十六 「産廃処分場を止める会」役員会（3月16日）
- 十七 （有）大宝砕石工業の「林地開発変更許可申請」に係る県からの意見聴取への対応について高野町長へ要請書を提出、高野町長から「近々、オオノ開発がT Oの産廃処分場設置計画の撤廃を発表する」との発言があった。（3月19日）
- 十八 （有）大宝砕石工業の「林地開発変更許可申請」の件にて県が高野町長と面談（3月20日）



総会に先立ち、下記のチラシの講演会を持ちました。伊東さんは久万高原町の出身、かつては町内で幼稚園教諭を務めておられました。1954年のビキニ水爆実験で第五福竜丸だけでなく、約千隻が被害を受けたこと、漁師としての生業が成り立たなくなるので口を閉ざしていたこと、放射能は日本にもアメリカにも降り注いだこと、私たちはほとんどの人が確実に被曝者であること、十年余の渾身の取材結果で明らかにし、現在進行形の課題であることを知ってほしいと結ばれました。



核のゴミ最終処分地 工ネ庁説明会

去る6月24日、松山市で表記の説明会が開かれた。非公開で、エネ庁は出席市町を明らかにしていないが、愛媛新聞の取材では15市町が参加し、久万高原町も参加したことになる。最終処分候補地の選定方法が科学的有望地を示す方式になったことを受けての説明会だったようである。処分に10万年もかかるといわれる核のゴミを処理できる適地が地震列島といわれる日本にあるものなのか、

伊方原発再稼働知事同意

中村時広知事は、10月26日、経産省から要請を受けていた伊方原発3号機の再稼働に同意を表明した。「原発に代わりうるコストや出力、安定供給が満たされた代替エネルギーが見つかるとして、最新の知見に基づく安全対策を施して原発に向き合っていくべきである」と述べている。東電福島事故の原因も責任も検証されず核のゴミ処理不明、電力不足はない、反対世論が多い中での同意である。

主催 仁淀川流域の水とくらしを守る会 事務局 〒791-322 愛媛県上野内郡久万高原町新田町1431 TEL 0992-21-0706